

## 令和8年度 5月定例会会議録

- ◎開催日時 令和8年5月22日（金） 午後3時30分～午後5時00分  
◎場所 伊那市役所 庁議室  
◎出席委員 福與教育長、宮坂教育長職務代理者、黒河内教育委員、中村教育委員、神山委員  
◎欠席委員 なし  
◎出席職員 北原教育次長、北原学校教育課長、矢澤教育環境整備課長、柴生涯学習課長、  
北澤市誌編さん室長、塚越社会教育指導員、高嶋指導主事、小島指導主事、  
北原こども部長、澁谷こども政策課長、宮下子育てサポート課長  
牧田教育総務係長

### 1 開 会

### 2 あいさつ 教育長

- ・北原教育長職務代理者の任期満了に伴い、5月17日付で神山委員が教育委員会に加わった。また、宮坂委員が新たな教育長職務代理者となった。
- ・5月30日には伊那市内の小学校8校で運動会が予定されている。委員の皆様にも足を運んでいただき、子どもたちが元気に取り組む様子を見ていただきたい。
- ・報道されている高校生による悲惨な事件について、つい先頃まで小学生・中学生であった子どもたちが一線を越えるに至った背景を考えさせられている。
- ・生きづらさを抱える子どもたちが増えていると言われており、その内容は一人一人異なるが、どの子にも他者への敬意と思いやりの心を持ちながら、自分らしく幸せに生きる力をつけられるよう寄り添い、確かな支援をしていくことが、伊那市教育委員会の運営方針の柱であることを改めて考えている。
- ・本日は夜に歓送迎会も予定されているので、よろしくをお願いしたい。

### 3 こども部自己紹介

### 4 委員の一言 教育長

### 5 会議事項

#### 第1 教育長報告

- ・4月24日、東京藝術大学を訪問し、秋の伊澤修二記念音楽フェスティバルについて協力をお願いした。今回は40周年でもあり、さまざまな企画を進めている。昨年までの音楽部長が交代したことから、引き続きの支援をお願いするとともに、これまでお世話になった先生にもあいさつをした。秋の伊澤修二音楽フェスティバルでも、引き続きお世話になる。
- ・4月28日の情報委員会では、生成AIについて研修を行った。生成AIで何でもできる時代になっているため、何がメリットで何がデメリットなのかをしっかりと確認しながら、まず自分たちが研修で理解を深めていかなければならないと考えている。
- ・4月28日には保科正之公生誕415年祭があり、3年に1度の大きな交流会として、会津若松市、猪苗代町、長野市などから関係者が集まり交流を行った。長野市若穂地区に保科氏発祥の地があることから、保科氏発祥の地を語り継ぐ会からも参加があった。
- ・4月29日には中尾歌舞伎の春期定期公演が中尾座であった。中尾歌舞伎の得意演目である「御所桜堀川夜討「弁慶上使の段」」が上演され、おひねりもたくさん飛び交う素晴らしい公演であった。

- ・ 5月21日、上伊那教育七団体の第1回の会合があった。今年度県に要望する事項については、各団体の要望を一本化していく。上伊那への児童相談所設置についても、さらに前進できるように対応していきたい。

## 第2 議案

### (1) 伊那市教育支援委員の委嘱について

- ・ 学校教育課長から資料に基づき説明
- ・ 質問、意見はなく、原案どおり決議された。

### (2) 伊那市文化財審議委員会委員の委嘱について

- ・ 生涯学習課長から資料に基づき説明
- ・ 教育委員から「図書館協議会では、近年どのような課題が出されているのか。また、協議会の提案によって何か変わったことがあるのか。協議会の役割をどの程度果たしているのか、普段聞く機会がないので伺いたい。」との質問があり、生涯学習課長から「図書館協議会では、伊那市立伊那図書館と高遠町図書館の運営方法について検討している。今年度は高遠町図書館の開館周年記念に関する講座の内容などについても協議しており、現在、大きな課題となっているものは特にない。」旨の回答があった。
- ・ 原案どおり決議された。

## 第3 協議事項

### (1) 県教育委員会及び市町村教育委員会相互の連絡調整について

- ・ 学校教育課長から資料に基づき説明
- ・ 教育長から、県費負担教職員の身分や人事権の所在、了解事項及び覚書の趣旨、主幹指導主事による学校訪問等を通じた県教育委員会と市町村教育委員会の連携について補足説明があった。
- ・ 質問、意見はなく、原案どおり決議された。

### (2) 教育委員会推薦等による各種委員等について

- ・ 学校教育課長から資料に基づき説明
- ・ 質問、意見はなく、原案どおり決議された。
- ・ なお、「伊那市地方創生総合戦略審議会委員」の任期に誤りがあったため、次回定例教育委員会において訂正した一覧表を提示することとした。

## 第4 報告事項

### (1) 井月俳句大会小中学生の部について

- ・ 生涯学習課長から資料に基づき説明  
(質問・意見なし)

### (2) 人権同和教育事業について

- ・ 社会教育指導員から資料に基づき説明
- ・ 「伊那市人権同和教育研修会」について、教育長職務代理者から「外国にルーツのある子どもの伊那市の現状を教えてほしい」との質問があり、社会教育指導員から「把握している範囲では外国籍の児童生徒は120名弱であり、伊那北小学校、東部中学校、伊那東小学校、東春近小学校などに比較的多く在籍している」旨の回答があった。
- ・ また、教育委員から「外国籍の子どもへの支援を考える場の有無や、学校として課題を共有する場があるのか」との質問があり、学校教育課長から「伊那北小学校や東部中学校に支援

員を配置し、ポルトガル語や中国語への対応を行っているが、今後の施策については検討していきたい」旨の回答があった。

- ・さらに、教育委員から「外国にルーツのある子どもを取り巻く課題は社会的関心も高く、学校単位にとどまらず教育委員会としても対応を考えていく必要があるのではないか」といった意見や「保育園でも外国にルーツのある子どもがいるため、こども部とも連携しながら課題を検討してほしい」との意見があった。これに対し、こども部長から「こども政策課も会議のメンバーに入っており、保育園での課題についても検討していく」旨の回答があった。教育長からは「未就学児を対象としたMIMの取組みを昨年度から始めており、今後もこども部と連携しながら広げていきたい」との補足があった。
- ・「公民館人権同和教育講座」について、教育委員から「公民館単位の講座について、人権同和教育との関連性が分かりにくい内容もあるが、人権同和教育としてどの範囲までが対象となるのか」との質問があり、社会指導委員から「公民館ごとの取組を尊重しており、講座内容は多様であるが、野鳥を題材とした講座も『小さき命を慈しむ』という人権の視点と無関係ではない」旨の回答があった。教育長から「講座の狙いや趣旨が伝わることで、人権同和教育としての位置付けが見えやすくなる」との補足があった。

(3) 市誌編さん事業の進捗状況について

- ・市誌編さん室長から資料に基づき説明  
(質問・意見なし)

(4) 来月以降の文化施設の行事日程について

- ・生涯学習課長から資料に基づき説明  
(質問・意見なし)

(5) 共催・後援について

- ・学校教育課長から資料に基づき説明  
(質問・意見なし)

6 その他

(1) 次回定例会について

(2) 7月以降の主な行事予定について

(3) その他

- ・事務局から(1)から(3)まで、資料に基づき説明
- ・本冊p13について6/16～18 一般質問 場所訂正  
誤：庁議室  
正：議場
- ・教育委員から「定例教育委員会での『委員のひと言』について、何月が誰の担当かを事前に伝えた方がよいのではないか」との意見があり、学校教育課長から「教育長、教育長職務代理者、黒河内委員、中村委員、神山委員の順を基本としている」旨の回答があった。

7 閉 会